

中国モバイルインターネット市場の回顧及び展望

CCID(賽迪顧問)

2011 年 2 月 21 日

2000年にWAP(ワイヤレス・アプリケーション・プロトコル)としてモバイルインターネットが誕生してからすでに10年以上経過した。2010年、中国において3Gネットワークの構築が全面的に推進され、これにより3G端末やWeb2.0はさらに普及し、モバイルインターネットは発展を遂げた。

一、2010 年： ユーザーが急速に増加し、業界構造が初歩的に形成された

2010 年、モバイルインターネットは急速な発展を遂げ、ユーザー数及び収益はさらに増加した。中国互聯網絡信息中心(CINIC)は「第 26 回中国インターネット発展状況統計報告」において、中国のモバイルインターネットユーザーは 2010 年 6 月までにモバイルユーザー全体の約 4 割を占める 2.77 億人に達したと発表した。2009 年末に比べ、新規ユーザーは実に前年比 18.6%増の 4,334 万人に上ったのである。モバイルインターネットの収益も 2009 年の 112 億元からさらに増加しており、2010 年末までに 150 億元を上回ったと予想される。

また、以上のようなユーザーの増加に伴い、携帯電話を中心としたモバイルインターネット端末の収益も増加している。2010 年には、実に世界全体の 60%を占める 7 億台もの携帯電話が中国で生産された。その中スマートフォンの比率も上昇しているが、一般的な携帯電話は低価格で且つ操作もシンプルなため、依然として人気が高い。プラットフォームの中では、台湾 MTK 社の Java プラットフォーム、Symbian、Windows Mobile、Linux、Android、OMS、iOS、Brew などが主流である。その中でも Java プラットフォームが一般的な携帯電話のユーザーが多いという理由から首位に君臨している。Symbian は Nokia 社の端末に搭載されているためその後を追い、Brew は Qualcomm 社の CDMA 端末に向けて構築され、現在第三位となっている。

ユーザーの増加に伴い、モバイルインターネット市場は拡大し、関連業務も発展している。サービスのエンターテインメント性は高まり、コミュニケーションツールや情報ツールの付加価値も増加している。モバイル決済を代表としたモバイル e コマースも 2010 年に大きく発展した。中国銀聯は商業銀行 18 行、中国聯合通信(China Unicom)、中国電信(China Telecom)、携帯電話端末メーカーなどと提携し、モバイル決済産業聯合を成立した。中国国内における第三者決済の大手である YeePay も四川省成都市に位置する西部支払会社を買収し、業界構造を改革した。また、音楽、書籍、ゲームを代表としたモバイルエンターテインメントも急速に発展している。2010 年、四川省に位

置する中国移動 (China Mobile) のモバイルミュージック基地の売上は 100 億元を超えた。また、漢王 (Hanvon) に続き、盛大 (Shanda) も電子書籍分野に参入した。インスタント・メッセージ (IM)、モバイル SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)、位置情報サービス (LBS) などのコミュニケーションツールや情報ツールも普及しつつある。モバイル IM のアクティブユーザーは実に 1.62 億人に上り、モバイルブラウザのユーザーも 1 億人に近付いている。アプリストアのビジネスモデルも流行しており、中国移動 (China Mobile) が昨年オープンした Mobile Market にはすでに 8 万人のアプリ開発者が登録されており、ユーザー数も 1,100 万に達している。現在 3 万個以上のアプリが販売されており、ダウンロード回数は 4,000 万回を超えている。韓国の SK Telecom や Nokia など独自のアプリストアを開設している。業務の多様化及びコンテンツの深化がモバイルインターネットの発展の特徴になっているのである。

2010 年、モバイルインターネットはブームとなったが、課題も多く抱えている。第一に、費用や帯域幅の制約により、現在も 2G サービスが主体となっており、3G 端末の使用率が低いということ。第二に、スマート端末は比較的高価格なため一般的に浸透されておらず、多くのアプリも一般的な携帯電話向けに作られているということ。第三に、ユーザーの年齢層は若く、学歴や所得が低いということ。第四に、収益モデルがまだ明らかではなく、関連企業の収益力が低いということである。

二、2011 年：プラットフォームが改善され、ユーザーの獲得競争が激化するだろう

2011 年、2G 端末を用いてインターネットに接続する「2G+WAP」モデルは時代遅れとなり、3G 端末を用いた「3G+Web」モデルによるモバイルインターネットの時代が到来するだろう。

現在、千元台、数百元のスマートフォンがリリースされており、スマートフォンへの買い替えを牽引している。今後は、画面が大きく、操作もシンプルなタッチスクリーン式の携帯電話が普及していくだろう。また、2009 年に Google がリリースした Android OS が Symbian に勝ち続けることができるかも 2011 年の注目点となるだろう。Microsoft の Windows Phone7 も存在感を示し始めているため、無視することはできない。今後は「オープン性」が OS プラットフォームの特徴となっていくだろう。

また、今後は帯域幅や費用の制約が改善され、動画のダウンロード、テレビ電話、リアルタイムモニタリング機能がさらに普及するだろう。モバイル決済に関する法的規制や市場環境の改善に伴い、2011 年にはモバイル決済の時代が到来するだろう。携帯電話料金の支払、クレジットカード返済、水道・電気代の支払、各種切符・チケットの予約が可能となり、バスの乗車から映画やショッピングまですべて携帯電話を通して可能となるのである。さらに、アプリストアブームが訪れるこ

とも間違いなく、今後も取引量は拡大し、ネット広告と併せ、モバイルインターネットの重要な収益源となるだろう。

以上のような背景の下、今後はユーザーの獲得競争が激化すると予想される。端末からアプリ、通信から位置情報サービス、ブラウザから入力メソッドまでのあらゆる分野において、激しい市場競争を勝ち抜くためにユーザーの獲得が必須のものとなっているのである。

総じて、モバイルインターネットは 2011 年に大きく発展すると予想され、今後どのような発展を遂げるか注目である。